

監修の序

顎・歯・口腔は、歯学と医学がクロスオーバーする領域である。この領域では、歯の疾患から顎骨・口腔やその周囲の悪性腫瘍、また唾液腺などにも多くの疾患が存在し、耳鼻咽喉科領域との関連も深い。しかし、私も含めておおよそ一般の画像診断医は、顎・歯・口腔領域を苦手としている。そもそも、医学部では歯科領域の教育に十分な時間が割り当てられておらず、また専門性の高い独特な表現もあり、歯科領域でよく用いるパノラマX線撮影などを読影することもない。さらに、この領域を専門としていなければ、なかなか最新の知見にキャッチアップすることも難しい。施設によって状況はかなり異なると思われるが、我々の施設も含めて、画像の読影は一般の画像診断医にも要求されることも多いので、やむを得ずレポートを書いているのが現状ではなかろうか。

このような状況の中、熊本大学では、これまで生嶋一朗博士（現 都城市郡医師会病院）、平井俊範教授（現 宮崎大学）を中心に、中山秀樹教授の主宰される歯科口腔外科と、カンファレンスなどを通して多くの症例を経験・共有してきた。そして、何とかそのデータベースを活用できないかと考えていた。そこで、この領域の第一人者である日本大学の金田 隆教授に相談して、医科、歯科双方に向けた口腔領域を中心にした画像診断の本を上梓することとなった。

私の知る限り、これまで医科の領域で歯科口腔領域に特化し、即臨床に役立つ症例中心の画像診断の成書は見当たらない。おそらく歯科の領域でも、このようなCTやMRIを大幅に取り入れた実用的な成書は存在しないと思われる。その意味で、本書は歯科口腔領域における決定版となったのではないかと自負している。一般の画像診断医のみならず、多くの口腔外科医、歯科放射線科医、研修医の方々にも、是非、手にしていただきたい。

最後に、この本の企画・編集に尽力してくれた学研メディカル秀潤社 画像診断編集室の皆さんに心より御礼を申し上げる。

2017年6月

山下康行